

「自立活動」でつくるインクルーシブな教室 — 通常の学級で生かす自立活動の視点—

I 団体の概要

本研究会は平成16年に発足し、初めは「特別支援教育ってなんだろう?」と困惑からのスタートだったが、そこからコツコツ実践を積み重ねてきた。

特別支援教育に携わる様々な学校関係の方が集まって、現場での実感を分かち合い、子供の目線に立ちながら、指導と連携の具体策を話し合い、明日の実践への活力を生む。そんな研究会を目指している。

II 今年度の研究

昨年度は発達障害等の子どもたちが過ごしやすい学校づくりについて、インクルーシブな教育の視点で理解を深め、具体的な手だてを探っていった。今年度は、特別支援学校の指導領域である自立活動をキーワードにインクルーシブな教室について考えることにした。自立活動の視点で通常の学級の教室を見ることで、支援の幅が広がり特別支援教室等との連携もより強いものになるのではないかと考え、会員等の実践発表と参加者による協議を通して研究テーマに迫っていくこととした。

また、特別支援教育コーディネーターとしてのスキルアップを目指し、ファシリテーションの技法の一つであるホワイトボード・ミーティング®を基礎から実践まで学ぶ研修を行った。



5月 春のセミナー 実践発表・グループ協議

8月 夏のセミナー 講義・演習

「ホワイトボード・ミーティング®で
つなぐ特別支援教育」

講師: ちょん せいこ 氏

(株式会社ひとまち代表取締役)

田中 雅子 氏

(北海道教育大学釧路校准教授)

11月 秋のセミナー 実践発表・グループ協議

2月 冬のセミナー 講演(演題未定)

講師: 青山 新吾 氏

(ノートルダム清心女子大学准教授)

III セミナーの実施報告

【なぜ、通常の学級で自立活動の視点か】(基調提案)

- ① 特別支援教室や特別支援学級だけでなく、通常の学級でも自立活動の視点をもてれば、支援の幅が広がるのではないだろうか。
- ② 発達障害等の児童が過ごしやすい学級では、担任の先生が自立活動の視点での取組をしているのではないだろうか。
- ③ 自立活動を視点とすることで、通常の学級と特別支援教室、特別支援学級がつながりやすくなるのではないだろうか。

- ④ 目指す児童の姿や児童のウェルビーイングを考えると、通常の学級の児童にも、自立活動の視点が重要なのではないだろうか。
- ⑤ 職員室のウェルビーイングにも、自立活動の視点が関連しているのではないだろうか。

【通常の学級の中での自立活動的な実践例】

カラフルキャンディ	主な区分と項目	主な実践
「自分」キャンディ	1健康の保持 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 3人間関係の形成 (3)自己の理解と行動の調整に関する事。 4環境の把握 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	・ 自分の方(自己調整、自己選択、自己決定など) ・ チャレンジゾーン ・ マルチビザ ・ カラキャンモンスター ・ スマイルノート
「心」キャンディ	2心理的な安定 (1)情緒の安定に関する事。 (2)状況の理解と変化への対応に関する事。	・ 心の矢印 ・ こまったときは(援助要求) ・ ホットスペース ホットスペース
「友だち・対話」キャンディ	3人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2)他者の意図や感情の理解に関する事。 (4)集団への参加の基礎に関する事。 6コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事。	・ クッシュボール ・ やさしいことば(ボール)ときつことば(ボール) ・ 顔マーク
「からだ・うんどう」キャンディ	4環境の把握 (1)保有する感覚の活用に関する事。 5身体の動き (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。	・ シャキッとサイン ・ パワードツール



Ⅳ 参加者の声

- 子どもを見る視点について考えさせられる内容だった。通常の学級でも自立活動の視点が重要だと気付いた。(春のセミナー)
- 自立活動の項目は、子どもの成長に必要な観点が入っていることを改めて感じた。(春のセミナー)
- ホワイトボードに書き出していくことで、情報が整理され、子どもたちのよいところや困りが浮き彫りになっていくような感覚になった。子どもの強みを生かしたり、困りに寄り添ったりすることを大切にしたい。(夏のセミナー)
- たくさんの方々と情報交換でき、同じ思いや苦勞、立場について共感できたことが心強かった。(夏のセミナー)
- 具体的な実践、使ったカードや掲示物、子どもへの話し方も聞くことができて、自分のクラスでどのように活用しようか、イメージがふくらんだ。(秋のセミナー)

＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京コーディネーター研究会
代表者	所属	町田市立鶴川第一小学校
	職氏名	校長 小林 繁
	連絡先	042-735-1234
事務局	所属	豊島区立池袋第一小学校
	職氏名	主幹教諭 吉成 千夏
	連絡先	03-3916-3435
団体ホームページ	URL	https://tckenkyu.com
	二次元コード	